

# 子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン

in  
鹿児島

子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 鹿児島を開催します。  
多くの方々が子どもの貧困対策への理解を深め、より充実した民間や自治体の支援体制を構築するきっかけと場づくり、官民双方の繋がりづくりを目的するプロジェクトです。

すでに40都道府県で開催しました。今回、鹿児島県での開催を通して、官民ともに対策をさらに前へ進める後押しとなるよう企画しました。

2021年

日時

11月10日(水)

13:00~15:30

場所

かごしま県民交流センター 大研修室3 & オンライン

鹿児島県鹿児島市山下町 14-50

※一般参加はオンライン  
のみになります

講演

「市町村における子どもの貧困対策推進のために」

小河 光治 (公益財団法人 あすのば代表理事)

報告

鹿児島県の子どもの貧困対策について

鹿児島県子育て支援課

パネル  
討議

民間等の子どもの貧困対策について

パネリスト

園田 愛美氏 (かごしまこども食堂・地域食堂ネットワーク代表)

中園 伸宏氏 (いぶすきそらまめ食堂) = こども食堂の現場から

米藏 雄大氏 (大隅くらし・しごとサポートセンター) = 学習・生活支援の現場から

コーディネーター

小河 光治

主催 / お問い合わせ先・お申し込み先

公益財団法人 あすのば

〒107-0052 東京都港区赤坂 3-21-6 河村ビル 6F

電話 / 03-6277-8199

FAX / 03-6277-8519

メール / info@usnova.org

参加無料

事前に  
お申し込み下さい

あすのばウェブサイト (<http://www.usnova.org>)

内の申し込みフォームからお申し込みください。

電話、メールでの応募も可能です。

(定員)会場40人 オンライン100人程度

主催 / 公益財団法人あすのば 共催 / 鹿児島県、かごしまこども食堂・地域食堂ネットワーク

後援 / 内閣府 (以下申請中) 鹿児島県教育委員会、南日本新聞社、NHK 鹿児島放送局、MBC 南日本放送、K T S 鹿児島テレビ放送  
K K B 鹿児島放送、K Y T かごしま読賣テレビ、エフエム鹿児島、鹿児島シティエフエム 助成 / 公益財団法人キリン福祉財団



## 小河 光治 (子どもの貧困対策センター 公益財団法人 あすのば代表理事)

1965年、愛知県小牧市生まれ。大学卒業後、あしなが育英会に勤務。神戸レインボーハウス館長、子どもの貧困担当などを歴任し、2015年3月に26年間勤務したあしなが育英会を退職。同年6月、子どもの貧困対策センター「一般財団法人あすのば」を設立し、代表理事に就任。2016年4月「公益財団法人あすのば」に移行。内閣府「子どもの貧困対策に関する検討会」構成員(2014年)、内閣府「休眠預金等活用審議会」専門委員主査代理(2017年～)、文部科学省「高校生等への修学支援に関する協力者会議」委員(2017年～)。滋賀の縁創造実践センター・社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会理事(2019年～)。



## 園田 愛美 (かごしまこども食堂・地域食堂ネットワーク代表)

自身の子育て経験等から、地域の中に「お互いさま」を取り戻したいと2016年より「森の玉里子ども食堂」を立ち上げる。どんな子どもも、大切にされているという実感をもって成長してほしいと考え、温かい食事と家庭的な団らんの場を作りたいと活動中。

2018年より、かごしまこども食堂・地域食堂ネットワーク代表。運営者同士で支え合う関係を作り、鹿児島の子どもの育ちを応援する人々の思いを形にして届ける懸け橋となるネットワークでありたいと考えている。2025年までに、鹿児島県内の全ての小学校区にこども食堂・地域食堂ができることを目指している。



## いぶすきそらまめ食堂 (中園伸宏代表)

「そらまめ食堂」とは…。ひとり一人が大切にされる地域社会をめざし、「誰もが、美味しいご飯を食べられて、ゆるやか〜につながる、月に1回の小さな食堂を」を作ってみました。小学生も一人で来てください。ご飯を食べて、くつろいたら、絵本の読み聞かせやギターの生演奏があるかも、隣の人とポツポツおしゃべりもいいかも。思い思いに過ごしたい、あなたのための食堂です。

※いぶすきそらまめ食堂 HP から引用



## 米藏 雄大 (大隅くらし・しごとサポートセンター)

2012年に発表された子どもの貧困者数が6人に1人という数値に驚き、自分にできることはないかと考え、当時住んでいた名古屋での街頭パトロール活動に携わる。困り感を抱える子どもは自ら行動することが難しいため、大人が積極的に関わるアウトリーチの大切さを感じる。2017年より、大隅くらし・しごとサポートセンターの学習・生活支援員として、学びの居場所としての学習支援教室の運営や、必要なサポートを個人へ届ける訪問支援に力を入れている。



## 子どもの貧困対策センター 公益財団法人あすのば

あすのばは、「明日の場」であるとともに「US(私たち)」と「NOVA(新しい・新星)」という意味もあります。子どもたちが「ひとりぼっちじゃない」と感じてほしいという「私たち」と一緒だよという願い。そして、多くの人に子どもの貧困問題が他人事ではなく自分事を感じてほしいという「私たち」でもあります。みんながつどう「場」であってほしいですし、すべての子どもたちが明日に希望を持って、輝く新星のような人生を送ってほしいという願いも込めています。

「調査提言」「中間支援」「直接支援」を活動の三本柱として、まだ光のあたっていない子どもたちにも、一人でも多く光があたるように活動を続けています。

### 【2016年度からの全国キャラバンの様子】

2016年度、沖縄県(那覇市)から開始し、兵庫県(明石市)・高知県(高知市)・長野県(長野市)・栃木県(宇都宮市)・山形県(山形市)の6県で「全国キャラバン」を実施、合計650人が参加しました。2017年度は、千葉県(千葉市)・富山県(富山市)・熊本県(熊本市)・京都府(京都市)・山口県(山口市)・香川県(高松市)・岐阜県(岐阜市)・長崎県(大村市)・福島県(福島市)の9府県で、合計879人が参加しました。2018年度は、岩手県(盛岡市)・神奈川県(藤沢市)・石川県(金沢市)・奈良県(奈良市)・三重県(津市)・静岡県(静岡市)・山梨県(甲府市)・広島県(広島市)・東京都(渋谷区)・佐賀県(佐賀市)の10都県で、合計932人が参加しました。2019年度は、新潟県(新潟市)・福井県(福井市)・青森県(青森市)・宮崎県(都城市)・和歌山県(和歌山市)・大分県(大分市)・愛媛県(松山市)の7県で、合計738人が参加しました。2020年度は、茨城県(水戸市)・滋賀県(大津市)の2県で合計225人が参加しました。

2015年度の6道府県の交流会を含め、これまで40都道府県で3774人が参加しました。各都道府県や各市町村からは、共催や後援・協力をいただき、各地で活動する団体等から活動報告やパネルディスカッション等を行いました。各地の方々とも意見交換を行い、子どもの貧困対策を進めるために政策提言に生かしています。